

報道機関各位

水稻栽培における環境負荷低減を目指した 施肥技術に関する検討会を開催します



(いばらき農業アカデミー 令和5年度品目別先進農業技術講座として開催)

水稻栽培で現在使われているプラスチックを使用した被覆肥料は、作物の生育に応じて肥料成分が溶け出すため無駄が少なく、肥料投入量も減り、環境への負荷も低減できる一方で、使用後のプラスチックの被膜殻が水田から海洋に流出することによる環境への影響が懸念されています。

今回は、こうした環境への負荷を低減するため、茨城県農業総合センター農業研究所がJA全農いばらきや肥料メーカーとともに取り組んでいる研究を生産者、農協職員、県の普及指導員などで意見交換を行い、現地導入への可能性を検討します。

つきましては、環境負荷低減に向けた研究の取組を県民にも広く紹介していただきたく、ご案内いたします。

【日時】 令和5年8月3日（木）10：30～12：00（受付開始10：00）

【場所】 茨城県農業総合センター農業研究所（水戸市上国井町3402）展示館、所内水田ほ場
受付場所：農業研究所 展示館（正門から入り左手の建物）

【内容】 1 室内検討（10:30～11:30）

ペースト二段施肥^{かんこうせい}*1や緩効性混合堆肥複合肥料*2の特徴について

（※1,2については、裏面2ページ目を参照）

2 ほ場検討（11:30～12:00）

所内「コシヒカリ」水田ほ場における試験の説明

※当日は、水田での検討も行うことから、暑熱対策の上、汚れてもよい履物でお越し下さい。

※雨天時決行のため、雨具の持参をお願いします。

プラスチック被覆肥料



被覆肥料入り
水稻一発肥料



使用後の被膜殻

環境負荷を軽減できる肥料



ペースト肥料



緩効性混合堆肥
複合肥料

田植え時に被覆肥料入り水稻一発肥料を施すことで、暑い夏場に追加の肥料を施す作業が省略でき、水稻栽培の省力化に貢献してきました。しかし、被覆肥料の被膜殻が環境負荷に繋がると懸念されています。

ペースト肥料や緩効性混合堆肥複合肥料には、プラスチック被膜殻を含んでいません。これらの肥料を用いて、環境負荷の少ない水稻施肥技術について検討しています。

【お問い合わせ先】

茨城県農業総合センター農業研究所 担当：研究調整監 中村憲治
TEL：029-239-7211、e-mail：ke.nakamura@pref.ibaraki.lg.jp

※1 ペースト二段施肥技術について

ペースト二段施肥とは、一定の粘性を持ったペースト状の肥料を、田植えと同時に土の浅いところ（上段）と深いところ（下段）の上下層の二段に分けて施すことで、水稻の根の生育に応じて肥料成分が吸収されることにより効果が長く維持され、生育期間中に追加の肥料を施すことを省略できる技術です。

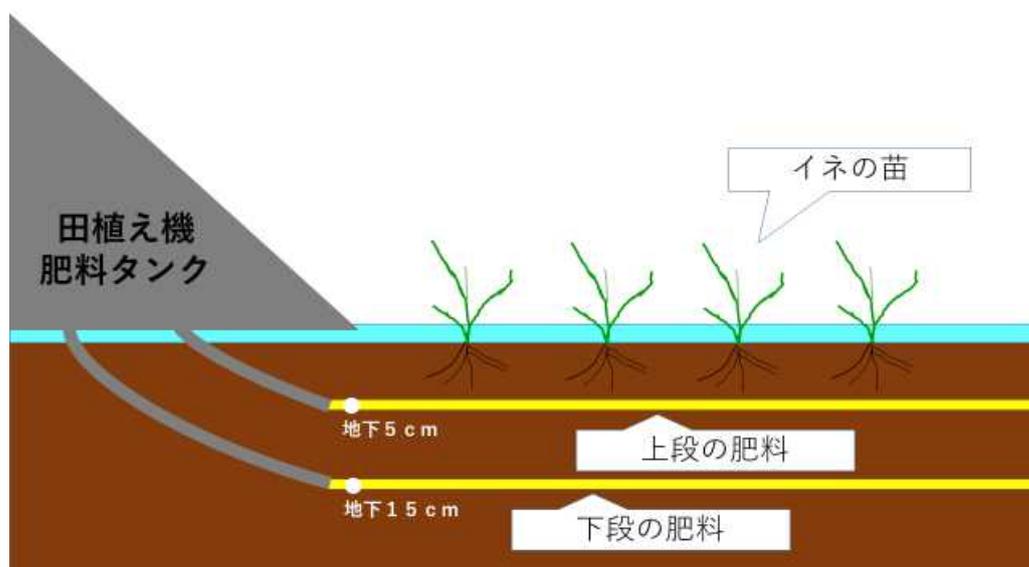


図 ペースト二段施肥のイメージ

※2 緩効性混合堆肥複合肥料について

家畜ふんなどの堆肥に化学肥料を加えて成分バランスを整え、一般的な化学肥料と同様に粒状にして取り扱いをやすくした肥料が、混合堆肥複合肥料です。緩効性混合堆肥複合肥料は、水に溶けにくい窒素成分（ウレアホルム）を利用して、肥料の効果が徐々に（緩効的に）現れるように工夫した肥料です。